

氏 名：中山 いづみ

学位の種類：博士（看護学）

学位記番号：甲第 238 号

学位授与年月日：2023 年 9 月 19 日

学位授与の要件：学位規則第 5 条第 1 項該当

論文審査委員：主査 大久保 暢子（聖路加国際大学教授）

副査 片岡 弥恵子（聖路加国際大学教授）

副査 八重 ゆかり（聖路加国際大学教授）

副査 谷口 珠実（山梨大学大学院教授）

論 文 題 目：産後早期の残尿および産後 1 ヶ月の下部尿路症状の関連性

博士論文審査結果

本研究は、20 歳以上の 37 週以降に経膈分娩をした女性 100 名を対象に、産後早期の残尿及び膀胱内尿量と産後 1 ヶ月の下部尿路症状、特に尿失禁との関連性を、膀胱用超音波装置での測定、主要下部尿路症状質問票(CLSS)、International Consultation on Incontinence Questionnaire-Short Form(ICIQ-SF)の評価で探索する前向きコホート研究である。

審査では、以下の 6 点が指摘された。

1. 結果に様々な用語が表現されており、理解するのに困難がある。「下部尿路症状」、「残尿正常群」、「膀胱過伸展」、「完全尿閉」、「不完全尿閉」、「産後尿閉」の定義の表現について、泌尿器科・排尿機能学会標準用語集の定義と異なるものは再度見直し定義の出典元も記載すること、専門学会で未定義の用語は、具体的に数値を用いて示し第三者に分かりやすく表現すること。
2. 結果に散布図があるが、分析方法には散布図などの分析については触れられていない、解析方法には、カイニ乗検定を行うと書かれており、リスク比とその 95%信頼区間を示すとは書かれていないなど、分析方法、解析方法と結果に一貫性がないことから、それらを見直し、一貫性を持たせること。
3. 仮説と結果の内容の不一致がある。仮説の表現を見直し、仮説、分析方法、解析方法、結果の一連を見直し、統一できるよう修正すること。
4. 残尿測定や下部尿路症状といったデータの収集時期と排尿に関するルーティン・ケアとの関係性が不明瞭であることから、ルーティン・ケアについての記述を追加すること。
5. 仮説の内容にそって結果を記述し、考察についても仮説が検証されたのか否かの視点から記述し、またなぜ検証されなかったのか、有意差が出なかったのか、正確な数値をどのようにすれば収集できたのかのデータ収集方法を考察して今後の課題としていくこと。
6. 分娩時の膀胱内尿量と硬膜外麻酔との関係性、残尿量と膀胱収縮力や神経圧迫などを形態機能学的側面からの考察を深めること。

上記の指摘に対して、適切な修正がなされたことを審査委員全員が確認した。

また本論文は、産後の排尿アセスメントの確立に繋がる結果を導いたこと、将来的に産後における残尿、下部尿路症状リスクの低下に貢献する研究であることが評価された。

以上より、本論文は、本学学位規程第5条に定める博士（看護学）の学位を授与することに値するものであり、申請者は看護学における研究活動を自立して行うことに必要な高度な研究能力と豊かな学識を有すると認め、論文審査ならびに最終試験に合格と判定する。